

建築学会

大正五、六、七年、俗信の音韻・河内への設計
大和の古建築

元寇覆滅之處

小石川区林町五十六番地
本郷龍岡町卅一

西大久保一六四 水野
北萩原

日本美術学院
赤坂区蒲池町三十三番地
電 新橋一八七九

十石川区六窪町
大谷 靖

東京市駒込区林町一六四
石井 節文

南禅寺山西意氏
谷越 中村達太郎



上京区押小路通
柳馬場東入

塚本清治

下立賣通全座東入

大森知事

上京区吉田町字神乐岡

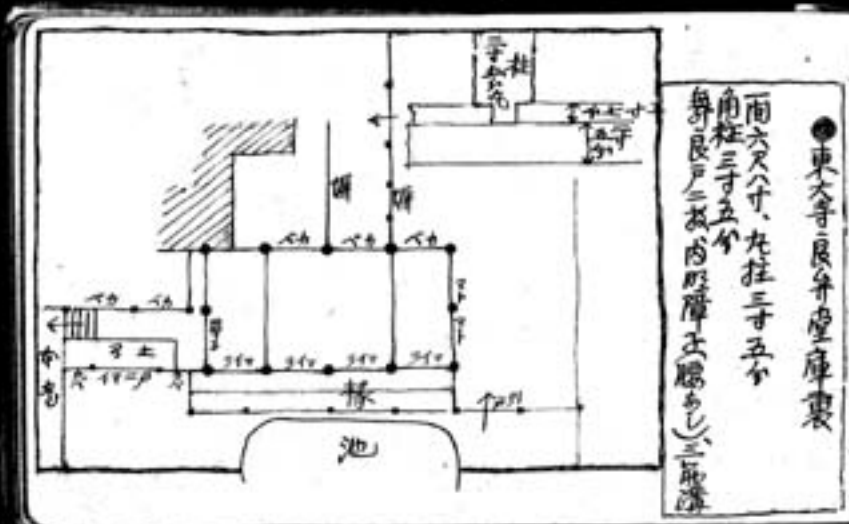
亀岡末吉

青山高樹町一七

福田眉仙

下谷区入谷町九九

飯塚長八

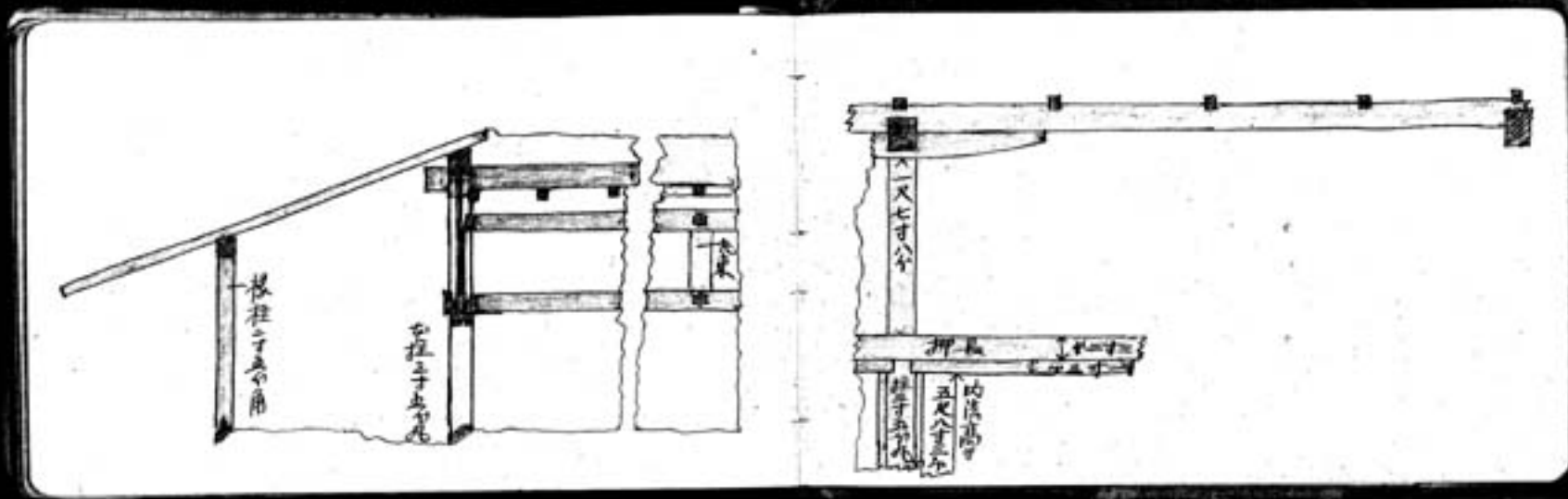


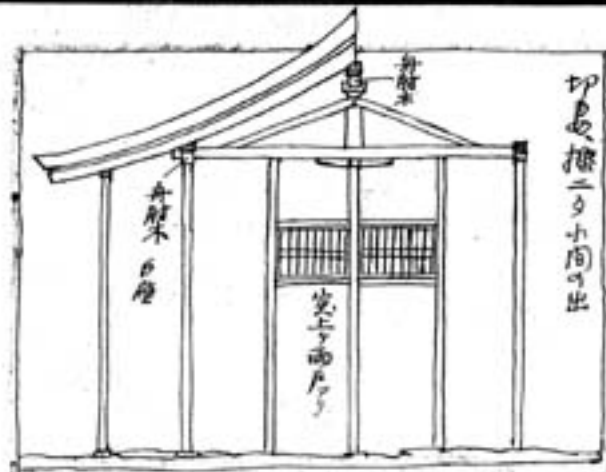
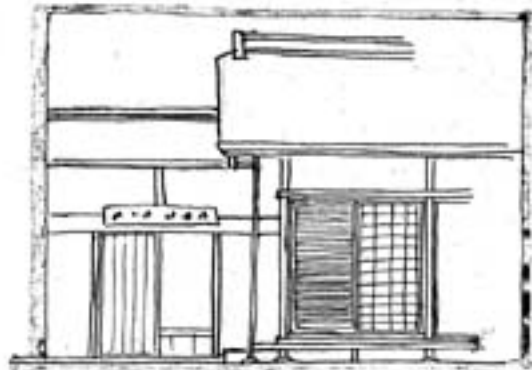
●東大寺良弁堂庫裏

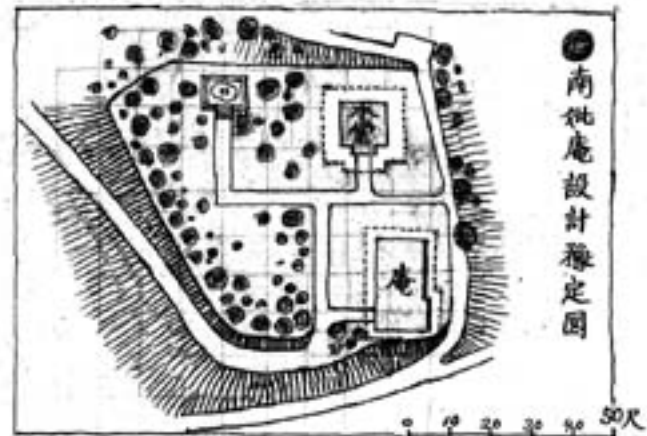
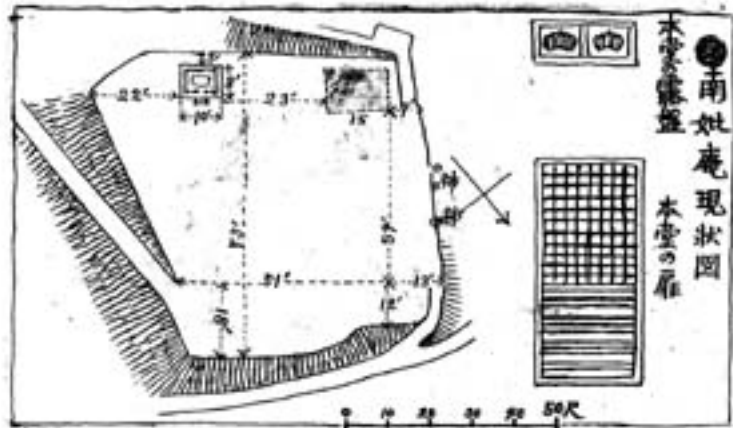
雨六尺八寸、丸柱三寸五分
角柱三寸五分
舞良戸ニ板内彫摩子彫あり、三股溝

奈良地方の事で、此が東大寺良弁堂が出た、
河内の観心堂は頗る宜しく思ふ、
京都の古屋等の勿論で、十かである、
而して江戸の縦横に尤もて、驚く事もある。

- 別は日本を知らぬで、若干の○がある。
1. タージマハル (印度建築か回教建築か)
 2. 蒙古と日本、成吉思汗の事、何れか無数の多教
 3. 西蕃經教導師八辨、(その他の無類の多教)

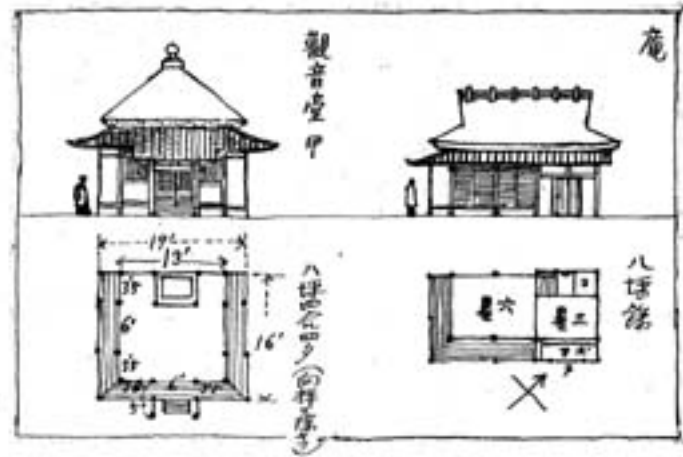
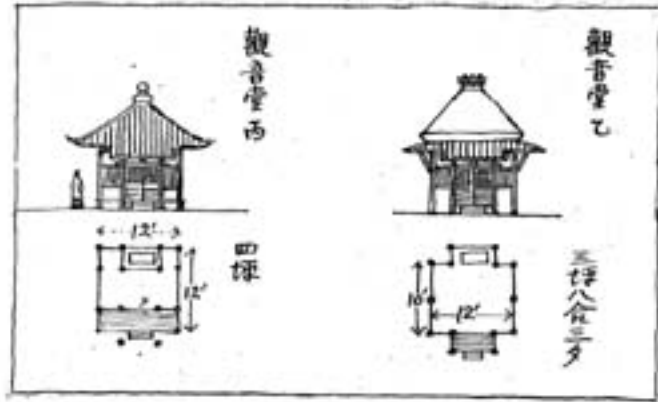


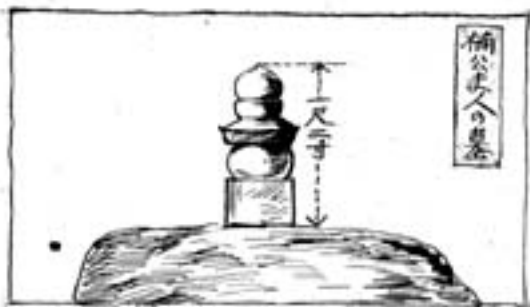




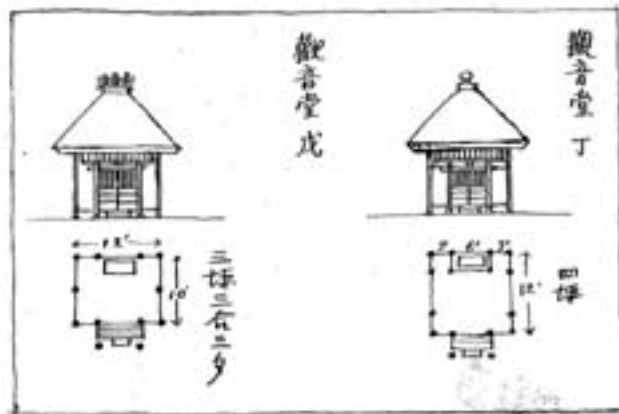
観心寺
行若寺





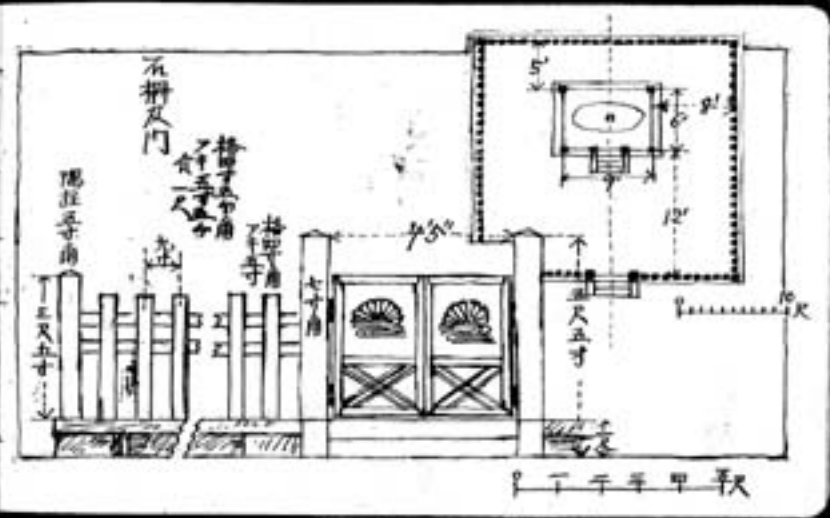


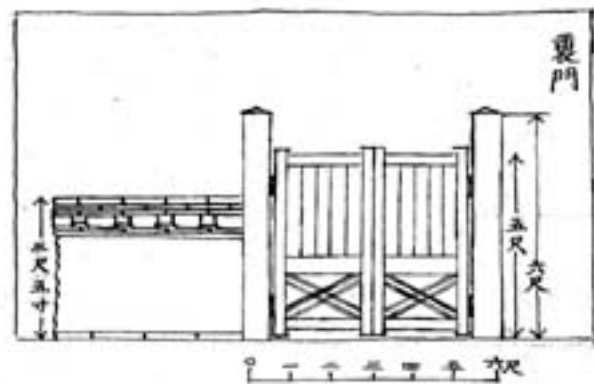
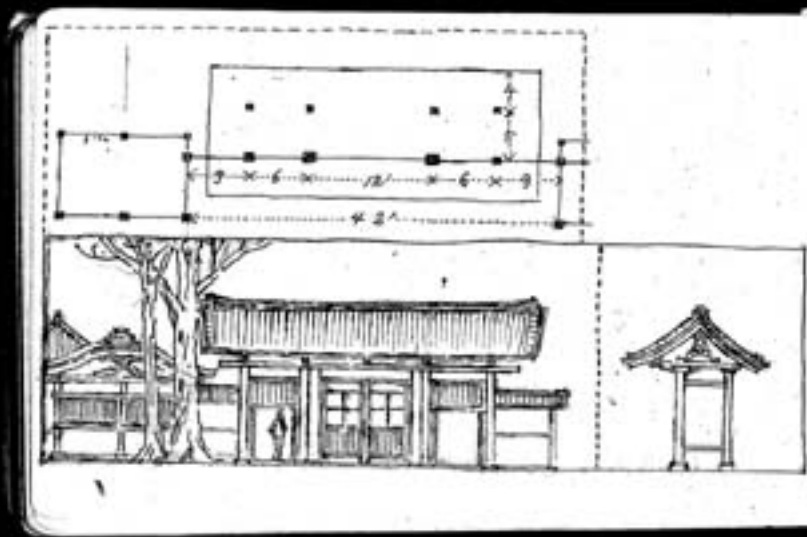
楠公少人の墓

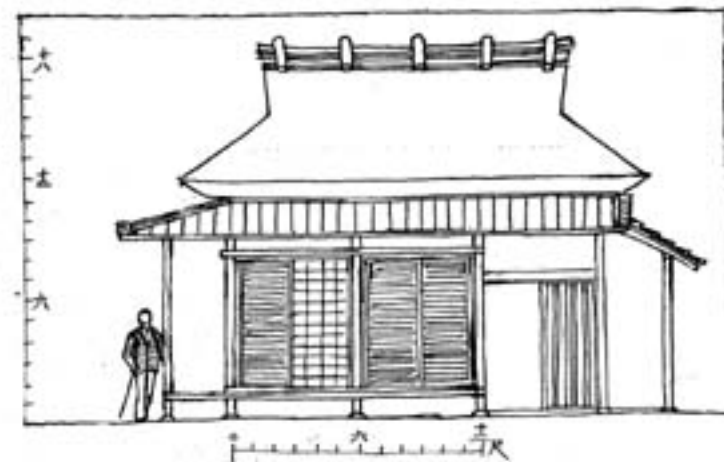
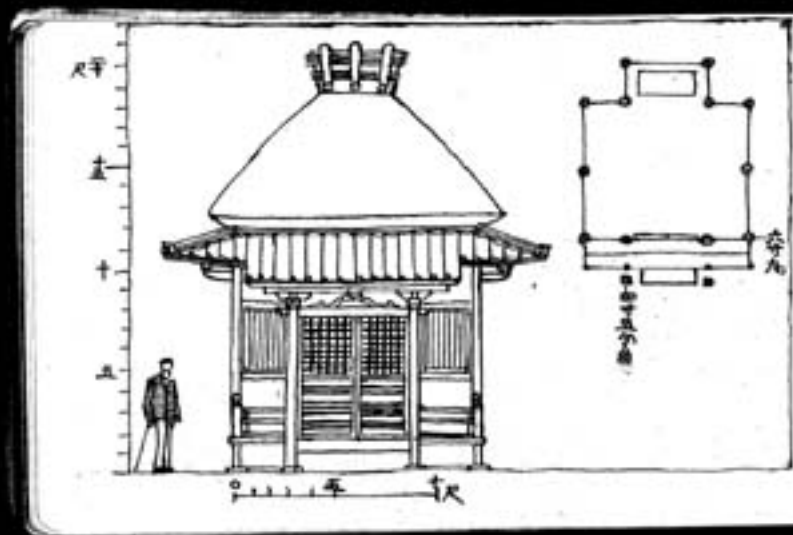


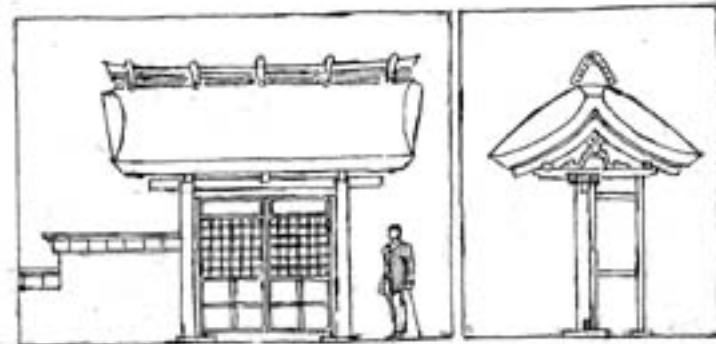
観音堂 戊

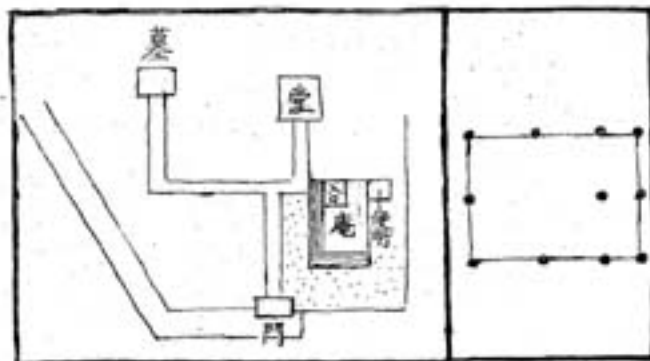
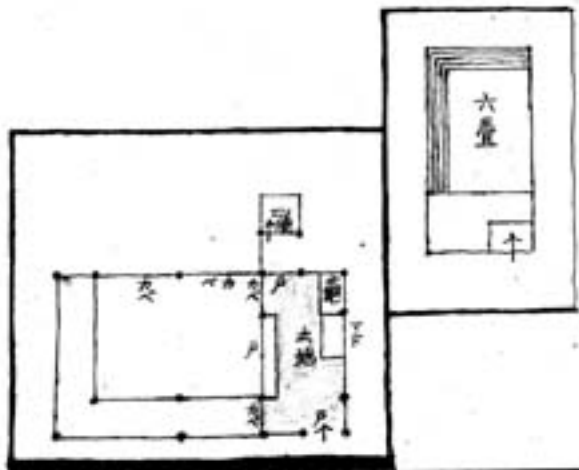
観音堂 丁











京都府 地蔵院

天平仙像多し

滋賀郡太子平寺藏

大般若經百四十二冊

藤原宮御寓天皇以慶雲

四年六月十五日登遐……

和銅五年歲次壬子十一月十五日

庚辰竟

京都府 光臺院

渡海文殊像

北白川宮藏

曾証大師賜号勅書道風書

智証大師入唐可受台州牒



住吉語

西行物語

土物味草紙

過去現在因果經

餓鬼双紙

天狗草紙

一遍上人繪卷

平治物語

東征繪傳(招提寺) 蓮行筆

源氏物語(起) 光顯筆

志貴山繪卷 慶忍筆

後三年軍記 行光筆

松壽天神繪記 土佐内伊筆

御物春日堆現驗記 蓮行筆

鳥獸戲画 高階兼隆筆

蒙古裝束繪詞 鳥田傳正

法然上人傳傳 藤原守長筆

拾遺古德傳 土佐吉光筆

融通會公傳記 元亨三年

傳長隆筆

光顯筆

慶忍筆

行光筆

土佐内伊筆

蓮行筆

源氏物語(起) 光顯筆

鳥田傳正

藤原守長筆

土佐吉光筆

元亨三年

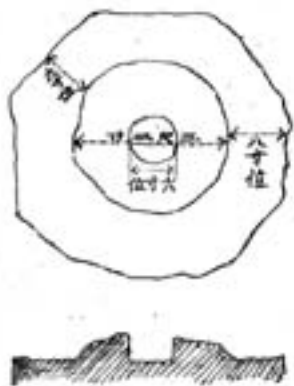


● 向原寺又曲豆浦寺

蘇我祖日向原ノ家ニ淨塔シテ寺トス
 ンヲ推古天皇ノ皇居トナリ曲豆浦堂ニ
 ニ云フ



向原寺礎石二箇今存ス寺ヨリ南ニ前斗リ
 本堂ノ如シ以テ規模ノ大ナリヲ知ルベシ
 難波ノ塔今埋マシク大々數十坪ノ小池ナリレ
 カ如シ



● 川原寺(蘇福寺)

本堂内持圓天手閣天ノ圓室ナラ



全堂五方四面ラレ

柵中ノ柱五尺傾カ九尺

厚各九尺ラレ

今礎六面四列ニ四存ス

塔礎柱各六尺ツ、あり古風式ナリ

●楠寺

東面

金堂跡に太子殿あり
三重塔の西塔に礎石あり三間名七尺許り

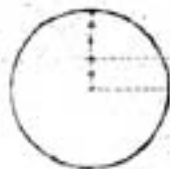
●岡寺

●飛鳥大佛

即法興寺跡

飛鳥を大字飛鳥

崇峻天皇元年馬子創立飛鳥寺と云ふ
五年仙臺歩齋ヲ作ル
推古四年吉野ノ臣手討ニ拜シ尊意
真跡ヲ二層ニ住テ飛鳥京ニ大寺ニテ
早城遷都後元興寺ト云フ
安居院ニ其殘趾ニ本尊於此ニ勸作
鳥ノ作あり



線下流時出伐
線下流後曬乾

蘇杭製材 一枚 3910-4600 比量 $\frac{46-62}{100}$

白鳥木材

新着材 百〇二本

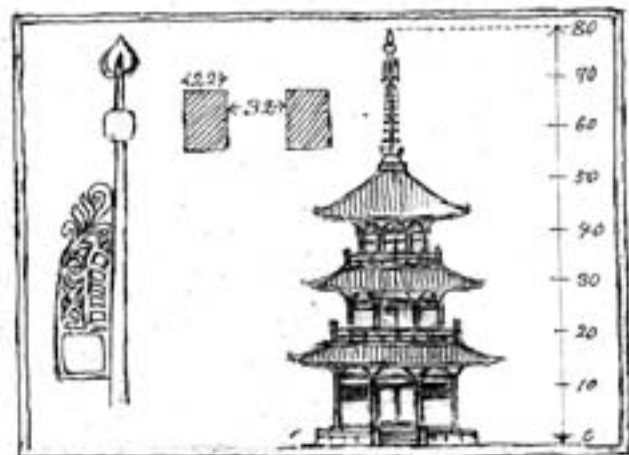
白鳥榎木 四百〇九本

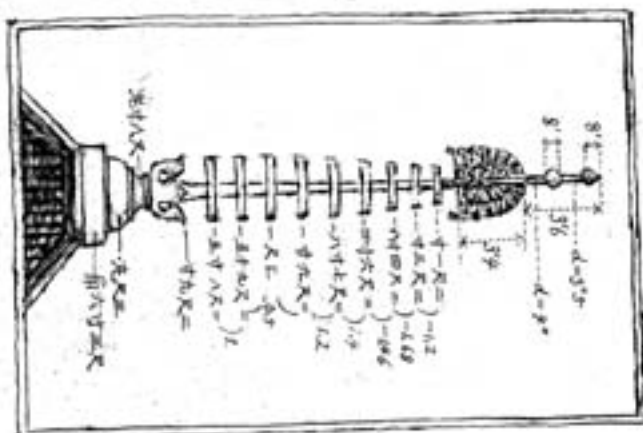
桑名榎木 四百廿二本

合八百四十一本(丙子六本榎木)

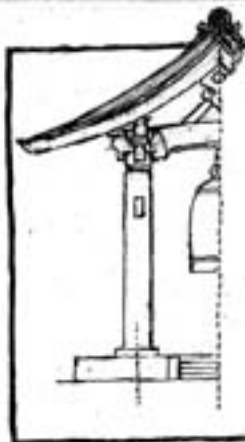
(一雁木共) 外倉庫内板子一枚







關野貞	奈良助教授	?	備考
武田五一	京都工務	○	
天沼俊一	奈良技師	○	
大江新太郎	建造局	?	
安藤時藏	全	?	
龜岡末吉	京都技師	病氣	
大沢三之助	宮内技師	廣徳宗教	
桐山平太郎	建造局	?	
阪谷良之進	古社寺	?	
塚本慶尚	古社寺	?	
後藤慶三	司法技師	?	
佐々木岩節	増壽技師	○	



梵鐘

口径ニ尺七寸 高四尺七寸



ターシマール

印度建築か回教建築事

● 狩獵紋と天馬紋

1. 序

2. 奈良に於ける遺物

3. 支那に於ける遺物 唐陵

4. 燧煙

5. 蘆珊

6. 埃及スシリア及埃及

7. 東羅馬

8. 西洋諸國

9. 發生及發展の系統

10. 結

江戸建築

- 一、緒言(一) 能論りや、各論に及ばず
- 二、桃山のりき、桃山の特色、住宅建築の発達
- 三、廟宇、社等、外面に現れたるも、住宅の裏面に発達せん
- 四、住宅は中心建築とありたり、大變化す
- 五、時代の分類
 - 一、寛永時代—初期
 - 二、元禄時代—中期
 - 三、幕末—末期
- 六、各時代の特色、その代表的建築
- 七、當時の建築家とそのスタイル
- 八、江戸趣味その起原—京都と比較
- 九、火災と建築—瓦葺と塗家
- (十)は別に研究すべし

今日の建築は

江戸建築のツレき
設備は文明的な空気入りたるも
プランの意味は遠くならず
昔は陸地のスケッチの中
この趣味は容易に變はぬ。



原型 160^円 八月十日迄
 石代 50.
 彫刻 240.
 荷運軍報 50.



七月廿二の朝
 佐々木、白井氏、伊勢へ出張
 二三日滞庄
 佐々木氏害虫 ()
 白井 防菌、困防腐 (生理)
 麻生氏 防水 (病理)
 八月七八九の内、二回会合



福田眉仙画伯

○この画巻は福田眉仙画伯が支那遠
く、河江の穴の、手紙を絶ち、崑崙の嶺
崎と登り、其安景景を描寫せり、つに
千紫万紅、忽ち、吳楚蜀に素纒
と燕とある。

○山河草木、風俗人事、画で、端々、
一点、劃皆、活躍、に、一樹、一石、皆、真、は、道、り
溢れる、感、感、興、に、乘、り、勝、れ、た、る、天、腕、を、揮
ひ、た、る、に、非、ず、ん、は、斯、り、如、き、を、得、じ。
余、亦、曾、て、画、伯、の、足、跡、の、印、を、亦、
踏、こ、き、今、以、て、こ、の、画、に、向、へ、往、昔
の、記憶、を、髣、髴、と、して、蘇、り、出、て、恍惚
と、して、身、の、再、ど、覆、履、且、に、客、ぢ、る、か、如、き
想、ひ、あり。

○余、感、歎、措、く、所、を、知、ら、ず、福、田、君
に、感、謝、す、る、と、全、時、は、我、邦、の、画、界、に、
斯、り、如、き、興、味、あ、る、出、版、物、を、現、れ、た、る

了を悦ぶ。

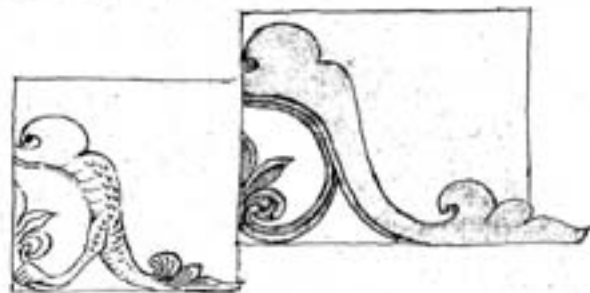
建築史総論

- 1. - Architecture 学説
- 2. - 今日吾人ノ所謂建築トハ何ゾヤ
- 3. - 定義難
- 4. - 史ヲナリテ
- 5. - Construction 万能ノ史
- 6. - Art 万能ノ服
- 7. - 实用 - Material + Mantel.
- 8. - 建築史派ノ神論
- 9. - Historyノ根本
- 10. - History of architectureノ目的

徹き穿ち細にへり
其特を掲げて其
に迫り。

感歎措く所を知らず





● 建築の三要素

- ① 建築とは何をせよ
久しき問題あり
概に決定するに及ばず
- ② 両面あり
Aは理と智
Bは感情
- ③ 手續きは三の順序あり
プラン ↓ 材料構造
↓ 意匠裝飾

Furniture		電燈音機		水道機		管工		HST	
大臣	7 x 1100 = 10000	1 x 2500 = 2500	1 x 22 = 8	30	11	150			
次官	1 x 2500 = 2500	1 x 1000 = 1000	1 x 8 = 6	20	7	100			
秘書長	2 x 500 = 1000	2 x 350 = 700	2 x 4 = 8	30	11	150			
属	4 x 100 = 400	4 x 100 = 400	4 x 2 = 8	32	12	160			
	<u>13700</u>	<u>4600</u>	30	112	42	560			

瓦期		煨房 (stove & gas)	
大臣 - 1	50大臣	250 x 18 =	4500.?
次官 - 1	30次官	150 x 16 =	2400
秘書長 - 2	2 x 20 = 40		<u>6900</u>
属 - 4	4 x 10 = 40		<u>160</u>

Furniture	15700
Electric	4600
Water supply	560
Gas	160
Heating	6700
	<u>26120</u>
Garage	2000 x 8 = 16000
道路	2000 x 3 = 600
地+70	3000 x 20 = 600
	<u>43320.</u>

大臣門外馬車庫	40 x 100 = 4000.0
次官	25 x 50 = 12500
秘書長	15 x 50 = 7500
大臣	10 x 350 = 3500
次官	6 x 0 = 2100
その他	4 x 0 = 1400
門	6 x 200 = 1500
塙	30 x 20 = 1600
板塙	100 x 8 = 800
	<u>16700</u>

	43820
大臣	16700
次官	50000
秘書長	21000
属	9100
電	7200
水道	21000
煨房	5000
	<u>173520</u>

送別會

① 先回の送別會ハ甚面白カリシ得ル異

② 一々批評ノ時ト高橋氏ノ難詰ト對テ

③ 日清生命建築熱實條件ト乾高橋

④ 氏難論ノ主旨ハ左ノ如キト認

⑤ 名新ノ如キハ文下ト徹表セル良建築

⑥ C. 青年建築家ハ其ノ結果ヲ見テ其

⑦ 不徹底ノ建築キヤル建築ト思ヒ入

⑧ 徳義ヲ以テ却セテ然ラズン有寄

⑨ 君ハ高橋君ノ一言ニテスレテ多敷

⑩ 君個ニ對スルニ非ズトモ同考

⑪ 五 佐藤氏ノ辨明セテリシガ余ハ佐藤氏

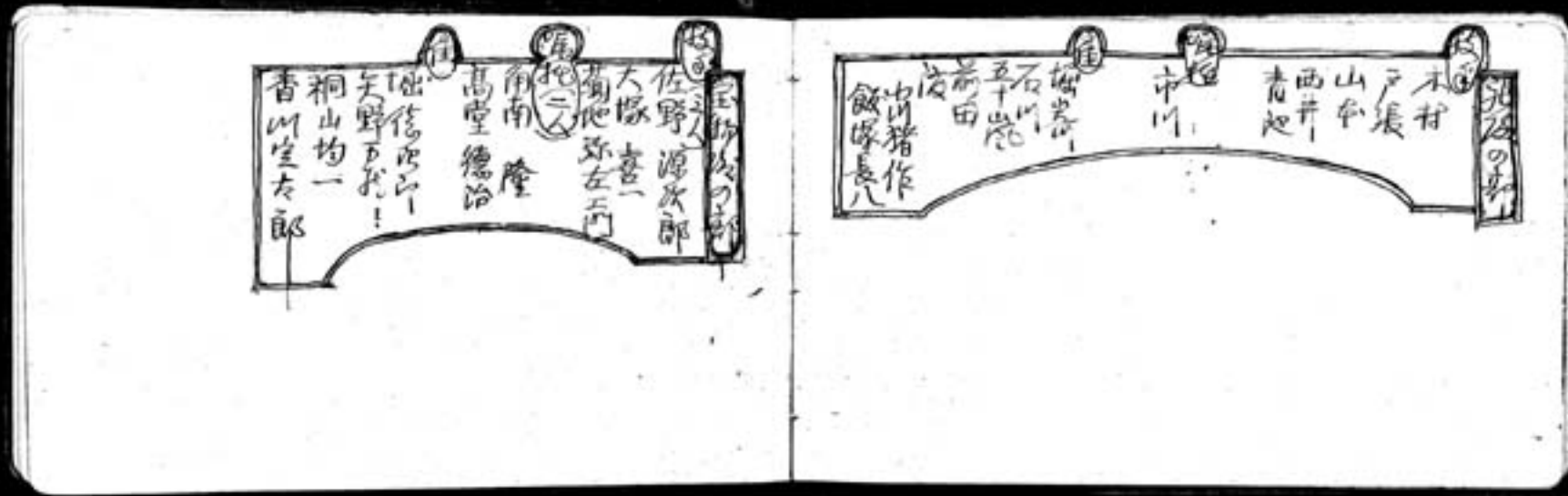
⑫ 依頼ニヨリテ審査員ニ加ハリシ故

⑬ 根柢問題ト感念問題ト云フ

② 建築の根本問題と先急問題

- ① 物に根本問題と先急問題アリ。
- ② 建築ナシ人ア是時生存スルヲ起ス、医師来テ中書者刑殺シテ元氣ヲ恢復セシム。
- ③ 人若シコレヲ見テ興奮割ノ如キ始息ノ一嘗アリテ蓋シテ何ツ根本的ニ身体ヲ強壯ナシムルヲ策ラトコナヤト。
- ④ コレヲ安んズ、ニ、又益シテ醫師ノ取レルべき應急策ナラバ、醫師ノ理想ハ人ヲレテ強壯ニシテ無病ナラシムルニ在リ、コレヲ容易ニ行フヘカラス、殊ニコレヲ方法ヲ研究スル儘、日日起ル病ヲ對シテ施療ノ處合ヲナレワケアリ、コレハ實際尤通シキ方法ナラス。
- ⑤ 建築ハ古今ナキ健康ナリト云フハカラス、除々に之ヲ健全ニ導クハ理想ナシ、日々起ル建築家ニ對シテハ應接ノ方法ヲ取ラザルハカラス、應接ノ應急策ニ於テ重大ニシテ緊要ナリ、之ヲ度外ニシテ書クハ理想ニ耽ルハ思はず。
- ⑥ 今昔有年建築家往ニシテ理想論ヲ支リテ應急問題ヲ等閑スルハ不可ナリ。
- ⑦ 医師ノ患者ヲ利用シテ種々研究スルカ如ク建築家ハ建築家ニ由テ種々研究スルコトス、注文者ガ餘ラズ不合理的不可行注文ヲ出セル際ハ適宜ニ之ヲ訓誨シテ、注文ヲ變更セシムルハコレ一喝シテ之ヲ謝絶スルカ如キハ不可ナリ。

- ⑧ 要件もに今日の色々の試み、時代あり、研究時代あり、注文あるは昔は色々ヤラツて見ても宜長成敷利鈍は多く心配するに及ばず、色々やんで見ても、中には多少はこま進歩を促し改良を促すを得、これ大成効あり、この建築は常に社会の爲のみを考ふるを得ず、注文主の特殊の要求も、重要せざるは、この要求にして有容あるハ止むを得ず有容ある限り、これヲ容る、い可あら、注文者は、必しも常に社会の爲に注文せずして自己の爲に注文すべからず。
- ⑧ 注文立立、適當ナキ入点アルモ之ヲ適當ニ改良シ得ルハ善ナリ。
- ⑨ 多ク不都合ナキ注文ハコレヲ引受ケル可ナリ、但今コレト理想と同一カラストモ之ヲ取難スルハ不可ナリ、引渡ラ之ヲ研究スルハ可ナリ。
- ⑩ 日常生命ノ困窮ニ至ルノ途人ハ未ダ決シテ不都合ナラス、例セハ合同文ヲ其基礎トシテ、或文章ヲ施レト云フ注文アリ、現下ノ建築カ、見テ之ヲ近ナラシメ之ヲ有容ナラシムルハ不可ナリ、コレ亦一試ナラシムル結果面白カラザリトテ、非難スルハ不可ナリ、面白カラセバ如何、要スルニ自分ノ理想ヲ根本的標準シ之ヲ以テ總テ律セシトスルハ不可ナリ。



北の山

木村

戸張

山本

西井

青地

中川

榎岩

石川

五十嵐

前田

後

中川猪作

飯塚長八

室村の部

佐野源次郎

大塚喜一

菊池弥左衛門

南隆

高堂徳治

出信の部

矢野五郎

桐山均一

香山定太郎

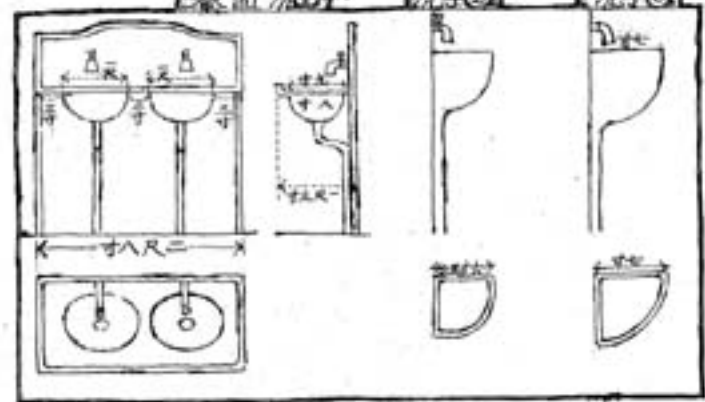
地名

Achim 埃及
 Pébrac 仏
 Siegburg 獨逸 Rheinland

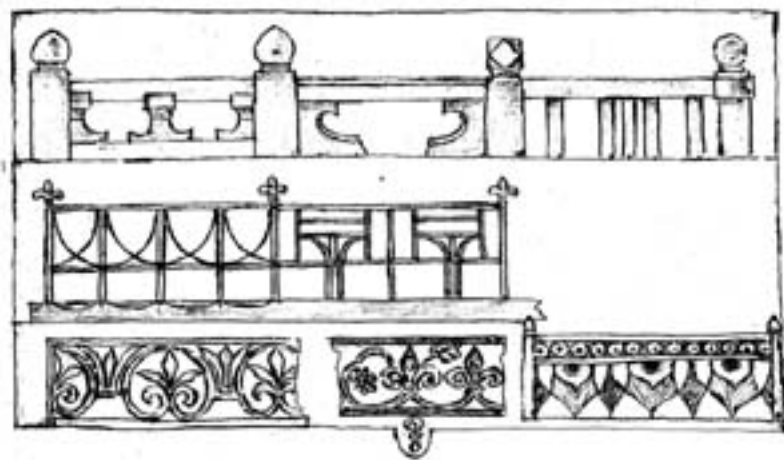
款名

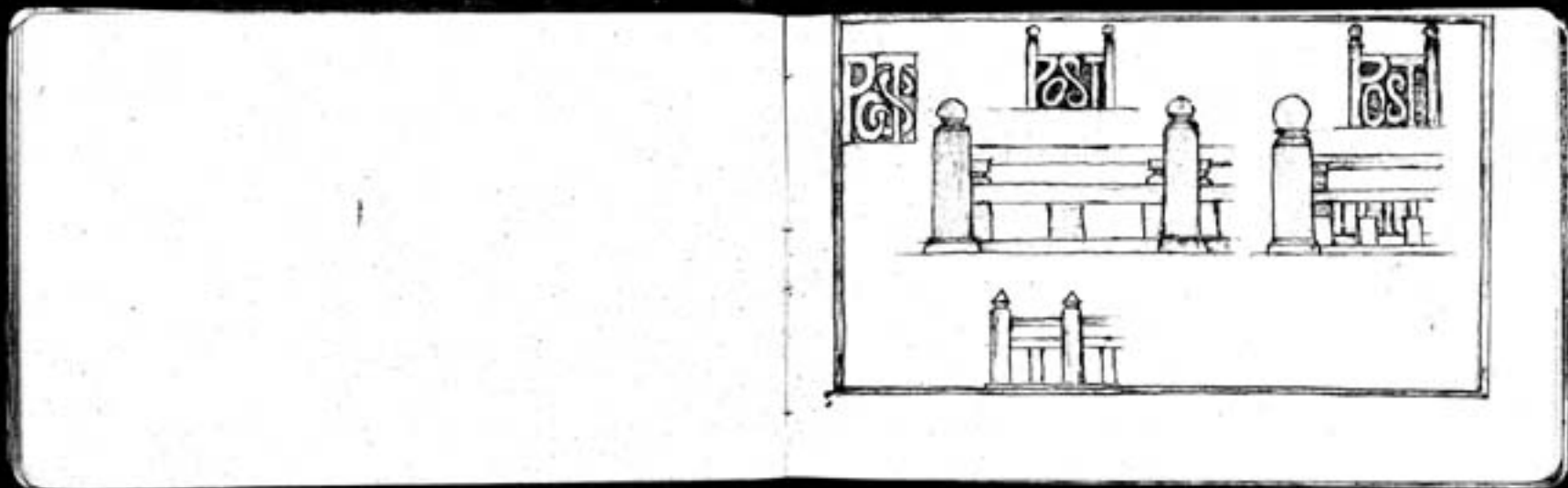
Victor Sieges
 Victorsudarium
 Potentianus
 Columbasudarium Columbanus = Apoll
 Eros = Amor

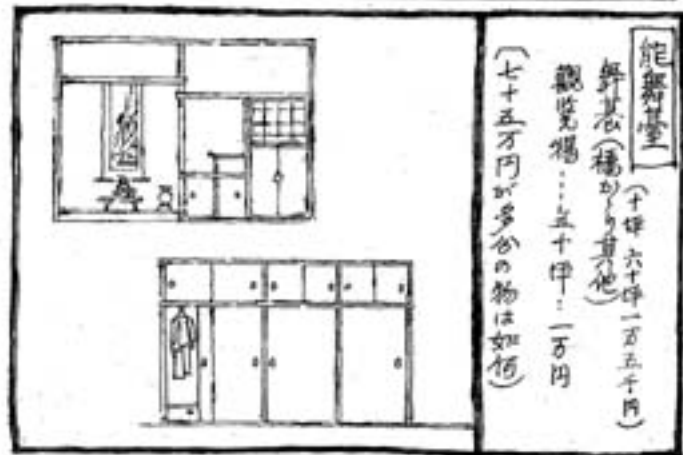
洗面① 洗手② 洗手③



員 明 之 欠 八
明 所 支 致 致
四 處 致 致 致
司 處 致 致 致





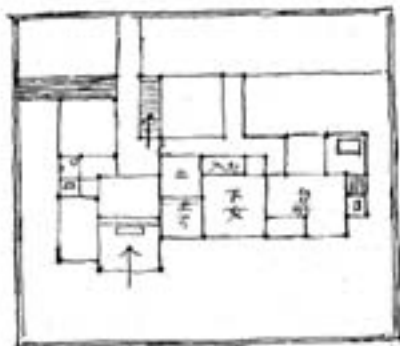


能登舞臺

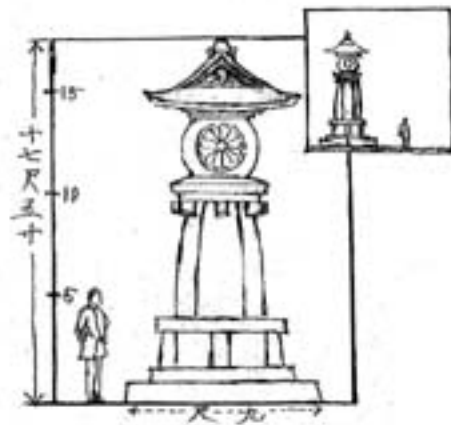
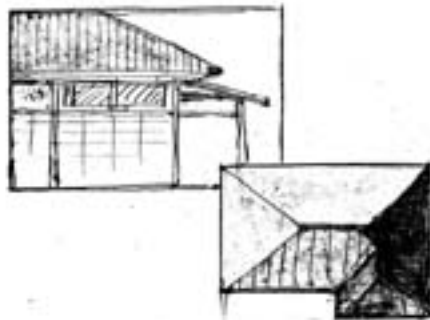
(十坪 六十坪 一百五十坪)
舞臺(榻)より身(他)

観覧場...五十坪...一万円

(七十五万円が多分の物は如何)

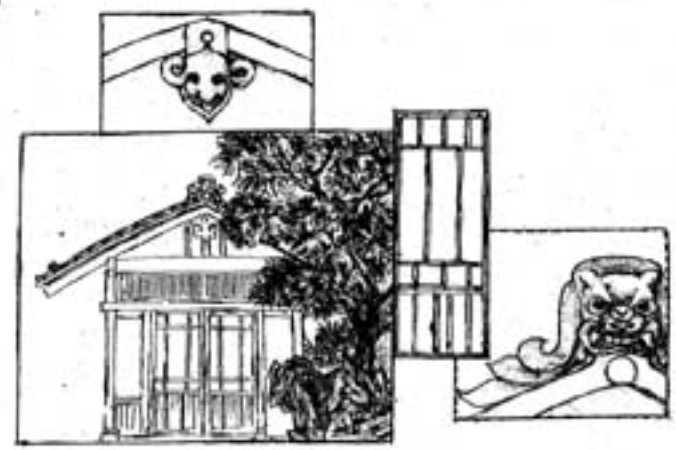






W	Asakutomo	Kiyaki
H	Nagareno	Kakitubata
A	Tonde	Yukikino
A	Narutubame	Mozita
	Mitake	Iigasano
	Kaoue	Motowa
	Nai	Kaina

Sa
Ka
Ma
Si
Si
A
S



額四 = (1)		二上 (7)	
Watasya	Omas	Sansa	Sozueka
Honofimi	Rena	Kayanono	Amake
Atono	Hiji	Otono	Sedekite
Kane	Sida	Nure	Kakaru
額四 = (1)			
Sanze	Sekai		
Karasio	Koro		
Nusite	Asano		
Site	Mita		
額四 = (1)			
Simno	Yanoka		
Sakurawo	Kezu		
Akaki	Kokoro		
Sumide	Kake		

Nidote	Yukamui	Namiro	Kuyokyo
Tangan	Miyata	Kawabata	Yamagi
Simono	Saifuza	Miguono	Nagarewa
Karate	Nary	Mite	Kurasa
額四 = (1)			
Takami	Sugumero	Kisone	Ontakesanwa
Sanayaku	Tamazu	Natadomo	Samui
Wataha	Rinkide	Awase	Yaritaya
Kiga	Mawazu	Tabi	docte
額四 = (1)			
Ote	Uesaya	Omae	Heterika
Wakarano	Turasa	Turesynwa	Naka
Ote	Wakarega	Turesyu	Itakara
Nakaria	Yoi	Kagode	Karu

<p>韻四二一(1)</p> <p>Watasya Omaeni Hozojini Renesji Atono Hijiwa Kane Sidai</p>	<p>韻四三二(7)</p> <p>Kimito Wakarite Matubara Yubeba Matume Tuzuyaya Namida Yara</p>
<p>韻四一(1)</p> <p>Sanze Sekaino Kacaino Korosi Nasito Anenya Site Mitai</p>	<p>韻二(7) - (-)</p> <p>Takai Yamakara Tanisoko Mireba Uruya Nasubino Hana Zakari</p>
<p>Sinno Yanokani Sakurawo Hegure Akaki Kikorowo Susude Kaku</p> <p>韻三(1)</p>	<p>Takeni Sugumewa Sinayoku Tomaru Tomete Tomeronu Koino Miti</p> <p>(7) = 韻</p>



<p>Kuyokuyo Yamagi Nagarewa Kuzasa</p> <p>韻 一 二 韻</p>	<p>(7)</p>
<p>Ontakesanwa Sannu Yoritaya Docte</p> <p>韻 一 二 韻</p>	<p>(7)</p>
<p>Hitorika ra Nakka Itakara Karu</p> <p>韻 一 二 韻</p>	<p>(7)</p>

建 設 四 二 (9)

Sakawa Teruteru	Otsukisama ikutiy
Suzukawa Kumoree	fusan Nanatū
Aino Iyiyama	Mada Fōsū
Amega Furu	Waka nā
	Amokowo sonda
	Konokowo umla
Tuzono Yokaguti	Saze ni Sakasho
Adaniva Susanu	Omanni Sakasho
	Oman Sokaita
Kicashi Mezamino	Abra Kaini
Tomeni Sagu	Pzina Kai...
 Esudo
	Subette
	Abraisho
	Sono Abta Soshita

新開記者扣呀一	地下室 厨
記者扣接呀一	書生評屋一
客待呀一	寢室一 客泊室三
座接呀二	居間一
便呀	小兒室一
食堂 三十人位一	書齋一
休息呀	侍女室一
或換小食堂	百二十坪
	五萬円

(物) 韻 四三-(7)		(呼) 韻 四三-(4)
Rikyue	Ojazu Nara	Tosawa Yoitoko
Waraji Haite	Ojaze	Minamiwo ukate
Kikywa	Ishiwara	Satama Oosimo
Korishi	Waze	Soyu Soyoto
Koito	yutatote	Saita Sakurani
Ikaryoka	Sadoe	Nazekama Tomayu
Sadown	Shijugare	Kamaga Isameka
Namino	Uye	Hanaga Tiryu
(物) 韻 四三-(5)		(呼) 韻 四三-(4)

(7)		
Osharo	Wakashima	(アウエ) 二類 (歡呼疑意)
Oyobimo	Naiga	
Semete	Utasutsu	
Isoya	Made	
起 Kawai	Katsuzoro	叫呼 歡悲 浮疑
Kurumani	Nosete	
Hikeya	Hasuhana	
承 Hake	Yana	Jakai Yamakara
轉 Nomijino	Aunoni	Tamisako Mireba
yukiga	Huru	Uviya Nasubuo
結 Saguya	Samukazo	Hana Zakari
Zumeta	Karo	韻二-(7)
		例異

曲藏經板樂師八佛



僧形ニテ両手ヲ胸ニ結印セルハ
シテ、ソシカニワ

全左ニ持テ持テ右手ヲ胸ニ結印セルハ

ケイアム、キムムラオ

全左ニ併像ヲノセ右ヲ胸ニ結印セルハ

古風同祖

バツドマ、セムンチ

アハルカレセ、大併塔ヨリ得タル

六音薩丈ニ入寸許ノ、殊彫精巧絶美

修階尼僧マイチク、

アミタ如來・坐像両手ニ並

俗謡の韻に就て

総論

日本俗謡ノ調子ハ好キト
韻ノアルトハ韻割ト云ルヲ、韻ヲカミテ説ク

四句、七七、五調を例トシテ、

是ヨリ廣ク行ハレ

節廻シヨリ

ア、イ、ウ、エ、オ、ノ音ノ性質

數呼聲表ヲ別

押韻ノ種類、尾韻頭韻、連頭ニ重

頭韻カ

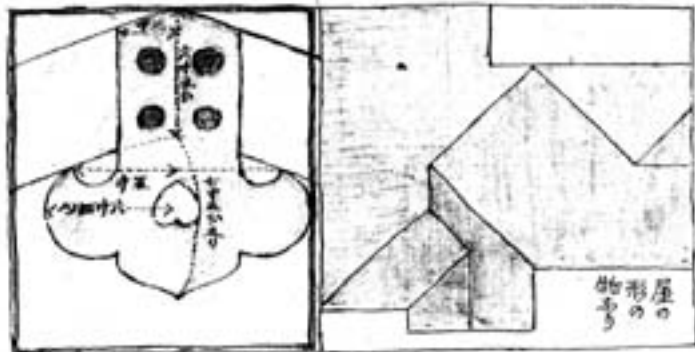
韻割ノ例

オシヨロ、及ハ五ノ、等

別例

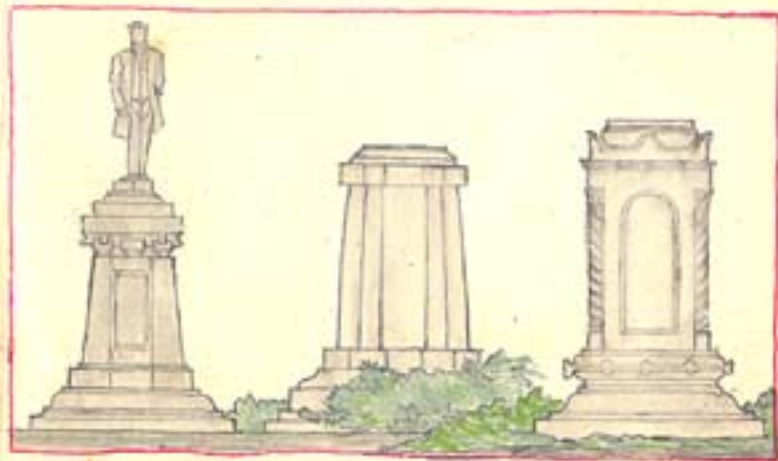
小守護!

時輪會主尊	一ホーラ、チアツラ	立交接像
白多羅佛母	＝スア、ローチナ	坐交接像(三面六臂)
金剛持如來	＝バツラ、ダハラ	坐交接像(一面二臂)
正有波王	＝タハチン、カエギヤ	獸皮被り人首ノ腰ノ口ニ眼ニ面六臂
秘密會主	＝ダヤ、サマシヤ	坐交接像、眼ヲ
馬頭明王	＝タムゲル、バルチク	牛頭騎牛人首ヲ標ニス
白傘蓋智嚴塔	＝ブチヤン、チヤ	白傘ヲ持ス



Nepal		
Pathan	Maha Boudaha	フナ型
Katamando	Swaganta	スナ型
* Pathan	Kathina Soree	三連木塔型 (2.1.1.1)
Bahat gawn	Sarash	五重木塔
Kathamando	Sarash	五重木塔
"	Chalun Kishoo	大塔 20-10型
* Mougul Dome a Stupa 30 葉 1-11		

辰野會長
長野副會
● 松井
● 内田
● 山崎
● 後藤
● 田村
● 大塚
● 岡田
● 福田
● 佐野
● 辰野

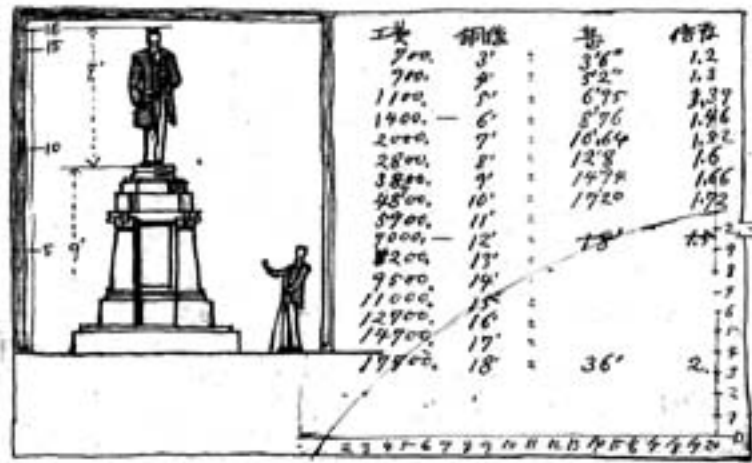


野尻から
まくり上り松花駒さん、
須原の上で、
宮の腰つき、

中々に秋のあはれを、
知らぬうし、
顔の血羊の、
色深くして、

京新行

さしを行く、
京の旅を人君の、
めぐりの雨は、
ぬれなく行く、





Ando三十位以上
 三ノ竹位子位子何
 摩製以一平才口60位多

京都桃山寺	10.17 - 10.34
桃山寺	12.6 - 12.32
桃山寺	11.26 - 11.43
エリ正西側	1.13 - 1.35

47

上京西之本木神口下る
 東側鈴木文右郎方
 智恩院境内
 基一頃女学校前
 岡松考方郎方
 大河内正敏

班禪 = Pan-tchen
 = Pendit - Maha
 = 大博士
 Doring = 石一長
 Charter = Choten



麻布區光林寺前二丁目
 養生園
 野口
 手取ヶ谷新田
 野口ゆか

大正五六年

俗性の音類・河内の設計
大和の古建築等